

第 5 学 年 外 国 語 科 学 習 指 導 案

5 年 2 組 指 導 者 後 藤 大 雄

単 元 Let' s enjoy “ドキドキ道案内” !

1 本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

英語によるよりよいコミュニケーションを図ろうとする態度

2 本単元で、各教科等の本質（見方・考え方）の創出と受容、転移を行っている子どもの姿

本学級の子どもたちは、自分の考えを英語で伝えようとするため、夢の職業のための時間割を作って発表する学習やできることや、できないことについてクイズ形式で発表する学習に取り組んできた。このような子どもたちが、英語によるやり取りで自分の考えを伝え合う学習に取り組む。このことは、英語表現と日常生活に関する身近で簡単な事柄とを関連付けながらコミュニケーションを図ろうとする態度（転移）につながるであろう。

本単元は、英語で道順を伝えたり、指示に応じたりする学習である。本単元で扱う言語活動“ドキドキ道案内”は、無作為に選んだ場面カードに応じて、道案内先の施設や道順を考えながら、地図上で道案内のやり取りをするゲーム性のあるコミュニケーション活動である。子どもたちは、場面を伝える英語表現や施設の語句を用いて、どこに、どのように道案内をしようか考えながら、コミュニケーションを図るであろう（創出）。その際、コミュニケーションのよさを視点に活動を振り返ることを大切にしたい。そうすることでコミュニケーションのよさに気付くこと（受容）ができるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 無作為に選んだ場面に応じた道案内のやり取りをする活動を設定する。そうすることで、道案内先や道順を考えながら英語で道案内をしようとするができるようにする。【創】
- これまで行ってきた道案内の活動の感想やその理由を仲間と交流するよう促す。そうすることで、コミュニケーションのよさに気付くことができるようにする。【受】
- 道案内以外の場面において、英語でよりよいコミュニケーションを図るためにはどうすればよいかについて話し合う場を設定する。そうすることで、どのような場面でも、英語でよりよいコミュニケーションを図ろうとすることができるようにする。【転】

3 本単元の目標

- 場面に応じた道案内を考えながら、道順を伝えたり、指示に応じたりすることができるようにする。
- 英語表現と日常生活に関する身近で簡単な事柄とを関連付けながら、コミュニケーションを図ろうとすることができる。

4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○道案内の英語表現などを用いて場面に応じた道案内のやり取りをすることができる。	○場面に応じた道案内を考えながら、道順を伝えたり、指示に応じたりすることができる。	○場面に応じた道案内のやり取りをしようとするができる。

5 指導計画（全 4 時間）

第 1 次 英語で道案内を楽しむ（3 時間）【本時 2 / 3】

第 2 次 英語でよりよいコミュニケーションを図ることについて話し合う（1 時間）

6 本時案 【令和2年11月11日 10:20~11:05 5年2組教室】

- (1) ねらい 道案内のやり取りをしたり、活動を振り返ったりすることで、コミュニケーションのよさに気付くことができるようにする。
- (2) 学習過程 ※一重下線は創出、二重下線は受容、破線は転移に対応する子どもの意識

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
1 挨拶をし、前時を振り返る。(5分) ・コミュニケーションのよさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ Hello! Mr. Goto & Ms. Katherina! ・ <u>前の時間にやった“ドキドキ道案内”は、相手の考えを予想しながら会話するから、難しいけど楽しかったのだね。</u> ・ 今日、Let's “ドキドキ道案内”だ。 ・ 場面カードが増えているぞ。楽しみだな。 	○楽しさや難しさに関する前時の振り返りを紹介する。そうすることで、コミュニケーションのよさを意識して活動に取り組むことができるようにする。【受】
2 場面に応じて英語で道案内をする。(10分) ・ 道案内の英語表現 ・ 道案内のやり取り	<p>相手の案内してほしい場所に道案内ができるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Play soccer を引いたよ。Park か School のどっちを目的地にしようかな。決めたよ。 A Play soccer か。サッカーができる場所は、Park か school だな。<u>どっちだろう。</u>よし、Park に案内しよう。Go straight for 3 blocks. Turn right. <u>当たるかな。</u> ・ <u>That's right! Thank you.</u> ・ 次は自分たちで場面を考えるのだね。 B お昼ごはんを食べる場面を追加したいな。お出かけしたら、その町にある restaurant で食事をする人が多いからね。 ・ 英語だと、お昼ごはんは lunch で、食べるは eat だよ。だから Eat lunch. だ。 ・ お弁当だと super market でも買えるから、super market も目的地にできるよ。 ・ つくった場面カードを使って続けよう。 B 僕がくじを引くね。I want to eat lunch. Please, tell me! <u>Aくんはどこに連れて行ってくれるのかな。</u> A Eat lunch したいのか。Bくんは、たしか Restaurant に行きたかったはず。だから、Turn left. Go straight for 2 blocks. Turn right. Stop! There is a restaurant. B That's right! お昼ごはんには、ご当地グルメを食べたかったからね。 	○場面カードを増やして英語で道案内をするよう促す。そうすることで、より楽しく道案内先や道順を考えながら英語で道案内ができるようにする。【創】
3 道案内の場面を考える。(7分) ・ 場면을伝える英語表現 ・ 英語表現と日常生活に関する身近で簡単な事柄とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次は自分たちで場面を考えるのだね。 B お昼ごはんを食べる場面を追加したいな。お出かけしたら、その町にある restaurant で食事をする人が多いからね。 ・ 英語だと、お昼ごはんは lunch で、食べるは eat だよ。だから Eat lunch. だ。 ・ お弁当だと super market でも買えるから、super market も目的地にできるよ。 ・ つくった場面カードを使って続けよう。 	○自分たちで場面カードを作る場を設定する。そうすることで、コミュニケーションの内容と日常生活とをつなげて考えることができるようにする。【受】
4 自分たちで考えた場面に応じて英語で道案内をする。(13分) ・ 道案内のやり取り	<ul style="list-style-type: none"> ・ つくった場面カードを使って続けよう。 B 僕がくじを引くね。I want to eat lunch. Please, tell me! <u>Aくんはどこに連れて行ってくれるのかな。</u> A Eat lunch したいのか。Bくんは、たしか Restaurant に行きたかったはず。だから、Turn left. Go straight for 2 blocks. Turn right. Stop! There is a restaurant. B That's right! お昼ごはんには、ご当地グルメを食べたかったからね。 	○前の活動と比べて振り返りを交流するよう促す。そうすることで、コミュニケーションのよさについての考えを広げることができるようにする。【受】
5 活動を振り返る。(10分) ・ コミュニケーションのよさについての考えの広がり	<p>場面カードを考えてみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>もっと楽しくなったから、またやってみてほしいと思ったよ。</u> ・ <u>自分の本当にやりたいことや行きたいところに案内してほしくなったよ。</u> 	

(3) 板書計画

① November 11th Wednesday. Let's enjoy "ドキドキ道案内"! ②

相手の決めた目的地を参考に案内板 → 楽しいけど難しい

Hello! I want to read a book.

目的地の選び方
restaurant
supermarket
sports shop
department store

場面も考えよう。
お昼ごはんを食べたい eat lunch
お弁当を買いたい buy a bag
お金をおろしたい take out money

go straight, turn left, turn right

There is book store. That's right!
Thank you!

③ やりづらい
・ 楽しいこと
→ 言いにくいことを少し言えた
・ 本当にやりたいことを言いたい